

事業報告書

事業名 令和6年度信州大学農学部出前講座
日時 令和6年7月23日(火)
主管 社会事業部(松永副会長、平林部長、佐藤理事、黒川理事)
協力 広報部(品田部長、田村理事)、平井会員(北信支部)

令和6年度の信州大学農学部出前講座は、森林・環境共生学コースの2年次生41名が参加しました。昨年は都合により中止となったため、2年ぶりの伊那キャンパスとなりました。

座学では担当理事による測量の講義の中、「土地家屋調査士という職業を知っている?」という問いかけに手を挙げた学生が3~4名ほどと、知名度の低さを改めて感じたところで。講義室では学生達が机の上に一人一台小さなパソコンを開き、今回教える側の面々の時代とは全く異なる雰囲気ではありましたが、測量の基本理論やTSとGNSSを実務で使用する場面、メリット、デメリットなどの講義に、熱心に耳を傾けていました。

屋外に出た実習では、TSとGNSSの2種類の測量機材を使って、観測と測設を体験してもらいました。この日は雲ひとつ無い青空にキラキラの太陽、大学がある南箕輪村の最高気温は34.5度を記録しました。この暑さで、大学側からもなるべく早く切り上げてという要請があり、皆でそうしようと話をしていたのですが…。

TSを扱う班は、2人一組になってターゲットの視準と観測を行い、画面に角度と距離が表示されるのを実際に確認し記録を取りました。上下左右にピッタリと合わない、ピントがずれるなど、最初は苦労していましたが、一度コツをつかんでしまうと慣れるのも早く、測量の基本を学んでいました。

GNSS班は、あらかじめグラウンドに埋めておいた学籍番号の入ったカラーテープを指定の座標から探すという体験を用意しました。目標に近づいたと思えば移動しすぎて遠くなってしまうなど、こちらも意外に難しいという声が聞かれましたが、探し当てた位置で地面を掘って番号を見つけると、仲間同士で歓声が上がりました。

学生の皆さんにはタイミングを見て木陰で休憩と水分補給を行ってもらい、体調面には気を配るようにしました。夏場の外作業には慣れているはずの我々でしたが、広大なグラウンドを動き回り、さすがに疲れが出てきたところで時計を見ると、予定の2時間をだいぶオーバーしていました。最後は駆け足になってしまいましたが、「楽しかったです!」と元気に声をかけてもらい、充実感を味わわせて頂きました。

観測したデータを教室に持ち帰り、各自で計算をして座標を算出しました。ここでも模範解答との差異が出るなどして、調査士の仕事に正確さが重要になることを理解してもらえたようです。

酷暑の中での実習となり、学生の皆さんには体力的に大変だったことと思います。また、今回の出前講座をお支えくださった小野裕助教には労いのお言葉もいただき、一同感謝しております。

小野助教の研究室では、森林土壌（水源涵養機能＝緑のダム）の働きを学び、実践的な森林管理方法の開発を目指すと伺いました。土の浸透性と聞くと、我々の業務にも全く無関係というわけではありません。これから様々な知識を身につけて社会に出た先で、「そういえば学生の時に測量実習をしたな」と、将来の職業選択に土地家屋調査士も加えて頂ければ、これ以上の成果はありません。

若い世代に土地家屋調査士制度を知ってもらうことは、長期的な取り組みとして今後も継続して行っています。

改めまして、ご参加頂いた学生の皆さん、先生方には、心から御礼申し上げます。

広報部 田村